中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.20

高浜中学校

地名の由来になった梅津寺を創建 雪广（せっけん）禅師が見守るまち高浜

私たちは総合的な学習の時間に、高浜地域を巡る「ピースマップツアー」を行い、地域めぐり新聞作りや、地域の人たちへのインタビューを通して、梅津寺を創建した雪广禅師について学びました。

梅津寺外観

梅津寺と雪广禅師

高浜地域の梅津寺町にあり、その地名の由来になったと言われている梅津寺は、元禄16年（1703年）、雪广禅師により現在の伊予鉄道梅津寺駅近くの駐車場あたりに創建され、梅津寺海水浴場の整備拡張のため昭和13年（1938年）10月、現在の高台に移築再建されました。

故郷である中国「梅津」の地がこの地とよく似ていたことから雪广禅師が大変気に入り、最後の祈りの場として創建したと言われています。

生徒たちが作った新聞

調べた内容で新聞作り

梅津寺を創建した雪广禅師

雪广禅師は慶安2年（1649年）、中国で生まれ、8歳の時に仏門に入りました。29歳のとき、長崎の興福寺に招かれ、以後、宇治の万福寺に行き、さらに当時の松山城主、松平定直の招請で、千秋寺（御幸一丁目）の四代目住職になりました。

当時「松山には過ぎたるもの」と言われるほど立派な寺であった千秋寺で、その務めを果たした雪广禅師は元禄13年（1700年）に同寺を去りました。その後、寺を別の地に建て、俗世から隠れて静かに暮らしました。その寺こそ梅津寺でした。

梅津寺を建て、その翌年ごろから少しずつ体調を崩し、千秋寺をはじめ多くの修行僧が手厚く看護をしましたが、宝永5年（1708年）に生涯の幕を閉じました。

話を聞きながら熱心にメモを取る生徒たち

雪广禅師と梵鐘（ぼんしょう）

雪广禅師は梅津寺を創建した翌年、宝永元年（1704年）6月に、中国から梵鐘を取り寄せました。

太平洋戦争のとき、全国各地の梵鐘は供出され、終戦になってもほとんど返ってきませんでしたが、梅津寺の梵鐘は無事に保存されていました。

高さ55チセン、直径33チセンの比較的小さい梵鐘ですが、彫りや作りなど、端麗な形をしており、歴史的・工芸的に優れている点が評価され、昭和37年（1962年）11月、松山市指定有形文化財（工芸）に指定されました。

「宝永元甲申林鐘吉日支那沙門雪广謹題」という銘文からは、「金を寄進して鐘を作った。その功は朽ちることはない、仏の利益があることはまちがいない」という大意が読みとれます。高浜地域は、300年以上も梅津寺と梵鐘、そして雪广禅師に見守られてきたまちなのです。

梵鐘を突かせてもらう貴重な体験も

高浜地域のことを好きになってくれてうれしい

雪广禅師が私たちの生まれ育った高浜地域を好きになり、最後の地として選んでくれたことをうれしく思いました。今回の学習を通じて、高浜地域は、海や山、そして梅津寺や雪广禅師に見守られたまちなのだと分かりました。

前列左から、山口滉太さん、北地鼓太郎さん、薬師神全さん。後列左から、中崎優美さん、西本凪砂さん、福井彩加さん、植木愛さん（いずれも1年）

先人と文化の読み物教材「語り継ぎたいふるさと松山 百話 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10～14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができます。